



第71回日本皮膚科学会中部支部学術大会  
イブニングセミナー2

AMGEN®

# 免疫の観点から考える オテズラ治療戦略

日時: 2020年10月10日(土) 18:00~19:00

会場: Web開催

本セミナーをご視聴頂くには、学会ウェブサイト (<https://cjda71.jp/>) より  
ご参加登録を先に済ませて頂く必要がございます。  
セミナーご視聴方法は、参加登録後に上記学会ウェブサイトにてご確認ください。

座長

山中 恵一 先生 三重大学医学部附属病院 皮膚科 教授  
永井 美貴 先生 岐阜県総合医療センター 皮膚科 部長

講演1

18:00~18:30

## 「最新の治療はどこまで乾癬患者の満足度を 高められるのか」

尾藤 利憲 先生 びとう皮膚科クリニック 院長

講演2

18:30~19:00

## 「困ったときのアプレミラスト」

山口 由衣 先生 横浜市立大学 大学院  
環境免疫病態皮膚科学 准教授



# 免疫の観点から考える オテズラ治療戦略

## 講演1

## 「最新の治療はどこまで乾癬患者の満足度を高められるのか」

尾藤 利憲 先生 びとう皮膚科クリニック 院長

乾癬の治療はここ10年で飛躍的に進歩した。難治だった重症乾癬患者が劇的に改善するという経験を多くの皮膚科医が有するようになってきている。しかし、最近の乾癬患者の治療満足度の調査報告によれば患者はその恩恵をまだ十分に得ていないと思われる。患者にとっては皮疹の改善だけでなく、かゆみや関節痛、また治療に伴う経済的な負担や時間など皮疹の治療という視点だけでは救えない問題が存在している。また、そもそも皮膚科医にとっても治療の進歩を十分に活用できているのかも疑問がある。筆者本人にとってもそうである。様々な治療をどのタイミングで、どの患者に使用するかについてはまだ試行錯誤の段階と思われる。現状での最終手段と思われる生物学的製剤、また重篤な免疫抑制をあまり生じさせることなく使用できるアプレミラストの出現により軽症から中等症、重症まで、治療手段を上手に選択すれば患者の様々な負担を軽減しながら満足が得られる治療は可能になると考えられる。最新の治療に加えて、従来からの外用剤や紫外線治療を組み入れながらいかに患者の満足度を高めるかについて、日々の診療の中でできる工夫をまじえて検討したい。

## 講演2

## 「困ったときのアプレミラスト」

山口 由衣 先生 横浜市立大学 大学院 環境免疫病態皮膚科学 准教授

アプレミラストはPDE4をターゲットに作用する分子標的薬と言えるが、その作用はcAMP上昇を通じて様々な活性化サイトカインや炎症性メディエーターを抑制するので、イメージとしてはややブロードに効果を発揮するマイルドな免疫調節薬である。ぐずる子供をあやして落ち着かせる、もしくは、起きてしまいそうな子供を再度眠りにつかせる、そんな印象を私は持っている。多くのBiologicsの登場により重症の乾癬に対する治療は充実した。一方、軽症乾癬でも難治部位のある方、中等症乾癬の方に対する治療法の選択肢は限られている。アプレミラストの使い方は様々であるが、実に困ったときに助けられることがある。軽微な付着部炎を持つ軽症乾癬、光線との併用効果、Post-bioの可能性など、アプレミラストが役立つ場は多い。本セミナーでは、アプレミラストの免疫学的作用をおさらいしつつ、アプレミラストのこれからの使い方を議論してみたい。